

教科名	国 語	週時間数	4	学年	I
使用教科書及び副教材等	・教科書 現代の国語Ⅰ（三省堂） 中学書写1.2.3年（光村図書） ・副教材 つまずかない！文法の学習（新学社） 新・国語の便覧（正進社） 国語スイッチⅠ（正進社） くりかえし漢字Ⅰ（秀学社） 積み上げ（明治図書）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」				
教科のねらい	・授業に積極的に取り組み、国語に対する興味関心を高める。 ・自分の見方や考え方を深め、表現の仕方に注意して話すこと聞くこと書くことができるようにする。 ・様々な文章を読み、目的や意図に応じて読み取る能力を育てる。 ・国語の基礎的な事項や知識を身につけさせる。				
授業の進め方	・1人1台端末の活用を基本に、教科書の内容を中心にして進める。 ・探究的な学習の過程を意識し、課題や学習方法を生徒自ら選択し、学習を進めていく。 ・漢字の小テストや聞き取りテストなど確認テストを適宜行い、知識や聞く力などを身につけさせる。				
定期テスト	出題方針	授業内容を中心に問題を出題する。（読解問題・言語・作文問題など）			
	範囲 (予定)	1学期中間	詩	物語	漢字
		1学期期末	説明文	物語	文法 漢字
		2学期中間	随筆	説明文	古典 漢字
		2学期期末	詩	小説	文法 漢字
学 年 末		説明文	小説	文法 漢字	
学習方法 (アドバイス等)	・授業に集中して取り組む。課題は自分で考える努力をする。探究のプロセスを意識する。 ・人の発表や発言はしっかりと聞き、友達の学び方を参考にする。 ・提出物の期限を守る。 ・家庭学習の時間を確保する。 ・読書をする。新聞を読む。				

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	<u>言葉の特徴や使い方に関する事項</u> ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・小学校までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち400字程度を読むとともに、文や文章の中で使うことができる。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・単語の種別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 <u>情報の扱い方に関する事項</u> ・原因と結果、違憲と根拠などの情報と情報との関係について理解することができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使うことができる。 <u>我が国の言語文化に関する事項</u> ・音読に必要な文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・共通語と方言の果たす役割について理解することができる。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりことに役立つことを理解することができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするることができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返り評価、改善しようとしている。	・振り返り内容 ・ワーク等の提出内容 ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	豊かに 想像する	・「朝のリリース」	4	・表現に着目し、ものの見方や考え方を捉える。 ・登場人物の気持ちの変化を読み取る。 ・話す速度や音量、ことばの調子や間の取り方などの効果を意識しながら話す。 ・音声のはたらかしきみを理解する。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・説明文の基本的構造を知り、読み方を学ぶ。 ・段落同士の関係に着目し、内容を読み取る。 ・活字と手書き文字・画数・筆順を理解する。 ・調べて集めた情報を分析・整理して文章を構成する。 ・話し言葉と書き言葉の違いを理解する。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読む。 ・ことばの単位・文節の関係を理解する。 ・行動の描写をもとに人物の心情の変化を捉える。 ・漢字の部首と成り立ちを理解する。
	5		・「竜」	4	
			・グループディスカッション	4	
	6	わかり やすく 伝える	・言葉発見1	2	
			・漢字を身につけよう1	1	
			・「ペンギンの防寒着」	1	
		ものの 見方・ 感性を 養う	・「クジラの飲み水」	5	
			・漢字のしくみ1	1	
			・レポート	5	
			・言葉発見2	1	
			・漢字を身につけよう2	1	
	7		・「空中ブランコ乗りのキキ」	6	
			・文法の窓1	3	
			・「字のない葉書」	3	
			・漢字のしくみ2	1	
2	9	論理的 に考 える	・体験に向き合い意味づける	4	・日常生活の体験から題材を決め、表現し、交流する。 ・読書をととして自分の考えを確かなものにする。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・主張・事実・理由づけを区別し、論理的に文章を読み解く。 ・指示する語句と接続する語句の役割を理解する。 ・構成を工夫して魅力を伝える。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・楷書を正確に書く。 ・古文を読み慣れる。 ・仮名遣いに注意し音読し、古典の世界にふれる。 ・目的や意図に応じて身の回りから題材を取り上げ、交流の中で題材の特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫を見つける。 ・漢文独特の言い回しに読み慣れる。 ・漢字の音と訓を理解する。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・意見と根拠などの関係に注意し、互いの発信を結びつけながら話し合い、考えをまとめる。 ・集めた情報を分類・整理して分かりやすく文章を構成する。 ・部首と成り立ちについて理解する。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・表現に着目して読み、その特徴と効果を理解する。 ・表現技法を理解し使う。 ・自分の感じたことが効果的に伝わるように表現を工夫し、作品全体を整える。 ・行書の練習。
			・私の読書体験	2	
			・漢字を身につけよう3	1	
			・「玄関扉」	4	
			・ことば発見3	1	
		10 古 典 に 学 ぶ	・スピーチ	5	
			・漢字を身につけよう4	1	
			・毛筆、硬筆	1	
			・月を思う心	1	
			・「竹取物語」	5	
		11 情 報 を 関 係 づ ける	・変わり身の上話	2	
			・故事成語-矛盾-	4	
			・漢字のしくみ3	1	
			・漢字を身につけよう5	1	
			・複数の情報を関連づけて考えをまとめる	5	
		12 読 み を 深 め 合 う	・行事案内リーフレット	4	
			・文法の窓2	3	
			・漢字を身につけよう6	1	
			・「それだけでいい」	2	
			・言葉発見4	1	
			・思いや発見をリズムに乗せる	4	
			・毛筆、硬筆	6	
3	1	視野を 広げる	・「トロッコ」	6	・情景や行動描写から主人公の心情の変化を読み取る。 ・話し相手の考えとの共通点や相違点をふまえながら、自分の考えをまとめる。 ・常用漢字の読み書きを理解する。 ・必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。 ・共通語と方言の果たす役割を理解する。 ・伝えたいことが明確になるように、文章の構成や根拠の明確さを意識しまとめる。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・構成や語り手の視点を捉え、表現の効果を考える。 ・常用漢字の読み・書きを理解する。 ・集めた情報を編集会議によって検討・整理する。 ・楷書・行書の練習。
			・ブッククラブ	2	
			・漢字を身につけよう7	1	
		2	・「意味と意図—コミュニケーションを考える」	4	
			・言葉発見5	1	
			・意見文	6	
		3 振 返 っ て 見 つ め る	・漢字を身につけよう8	1	
			・「少年の日の思い出」	6	
			・漢字を身につけよう9	1	
			・グループ新聞	8	
			・毛筆・硬筆	4	

教科名	社 会	週時間数	3	学年	1
使用教科書及び副教材等	教科書 地理的分野「社会科 中学生の地理」(帝国書籍) 歴史的分野「新しい社会 歴史」(東京書籍) 副教材 地理の完全学習(正進社) 歴史の完全学習(正進社)				

指導の重点	課題解決能力・思考力		
教科のねらい	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。		
授業の進め方	授業は教科書の内容を中心に、授業プリントや端末を使ってすすめていく。 課題や学習方法を自ら選択し、学習を進めていく場前も設定する。 また、単元テストを行い基礎学力の定着をはかる。「思考・判断・表現」では、単元ごとにレポートやプレゼン発表等のパフォーマンス課題を行う。		
定期テスト	出題方針	授業で学習したことを中心に、教科書の内容に準じて観点別に出題する。「知識・技能」では、覚えた知識を問うだけではなく知識を十分に活用して資料を読み取る力もはかる。「思考・判断・表現」では、知識をどのように実生活や実社会に活かすかを問う問題も出題する。	
	範囲(予定)	1学期中間	世界と日本の地域構成・世界の古代文明と宗教のおこり
		1学期期末	人々の生活と環境
		2学期中間	日本列島の誕生と大陸との関係 古代国家の歩みと東アジア社会
		2学期期末	北アメリカ州 ヨーロッパ州 アジア州
		学 年 末	オセアニア州 アフリカ州 南アメリカ州 武士政権の誕生
学習方法 (アドバイス等)	授業に集中し、意欲的に課題に取り組むこと。ワークは繰り返し何度も行い学力の定着を図ること。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解する。 日本の国土の位置、や領域を理解し、時差の概念を理解し求めることができる。 人々の生活は、その場所の自然や社会的条件に影響を受けたり与えたりしていることを理解する。 世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。 世界各州の地域的特色を大観し理解する。	・定期テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布等から多面的・多角的に考察し、表現する。 日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 世界各地の人々の生活の特色を、その場所の自然や社会的条件等から多面的・多角的に考察し、表現する。 世界各州の課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて多面的多角的に考察し、表現する。	・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	課題に対して自分なりの考えや感想を持ち、授業の内容を身につけようとしている 各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・振り返りの内容 ・行動観察 ・提出物の内容

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	世界と日本の地域構成	・オリエンテーション ・地球の特色について ・緯度と経度 ・さまざまな世界地図 ・時差と日本の領土	1 9	学習の進め方や教科書、地図帳の見方を把握する。 なぜ、地球儀の他に多様な地図が存在するのかについて、複数の地図のメリットやデメリットを比較することで明らかにする。
	5	歴史への扉	・年代の表し方 ・時代の特色の捉え方	1	おおまかな時代区分ができるようにする。
		世界の古代文明と宗教	・人類の出現と進化 ・古代文明のおこりと発展 ・宗教のおこりと三大宗教	6	古代文明の比較や宗教との関連を通して、なぜ、文字や暦などが作られたかなどについて探究する。

		教の起 こり			
	6	中間テ スト等		2	
		人々の 生活と 環境	・世界の様々な生活と環境 ・世界各地の衣食住とその変化	9	グループごとに気候帯についての調べ学習を行い、発表する。(エキスパート学習)
	7	期末テ スト等		3	
		日本列 島の誕 生と大 陸との 交流	・旧石器時代と縄文時代の生活 ・弥生時代と邪馬台国 ・大王の時代	4	文献の少ない時代にどのような生活が行われていたかについて根拠を明確にして自分の考えを持つことができるようになる。
2	9	古代国 家の歩 みと東 アジア 社会	・聖徳太子の政治改革 ・東アジアの緊張と律令国家 ・奈良時代の暮らし ・平安京と律令国家の変化 ・摂関政治と国風文化	9	それぞれの時代では、どのような国づくりが目指されたのかを推移や因果関係をもとに探究する。
		中間テ スト等		2	
	10	北アメ リカ州	・アメリカの歴史と自然環境 ・大規模農業と先端技術産業	6	アメリカが世界に影響力を与える大国である理由を多面的にとらえることができるようになる。
		ヨーロ ッパ州	・EUの成り立ちと影響 ・農業と工業	7	EUの利点や課題について、ニュース記事などを用いて探究する。
	11	アジア 州	・東アジアの経済成長 ・急速に発展する南アジア ・資源が豊富な中央・西アジア	8	経済成長に必要な要素をアメリカの学習と関連させて探究する。
		期末テ スト等		3	
	12	オセア ニア州	・オセアニア州の自然と文化 ・他地域との結びつき	4	オセアニア州の国の外国との経済活動や位置関係を踏まえて考察する。
		アフリ カ州	・アフリカ州の自然と歴史 ・アフリカ州の産業構造の課題	5	・アフリカの課題を自然・歴史・産業の面から考察する。
3	1	南アメ リカ州	・南アメリカ州の自然と歴史 ・ブラジルの開発と保全	5	SDGsの項目を参考に、開発と保全のジレンマ的な課題にどのように向き合っていくべきかについて考察する
	2	武士政 権の成 立	・武士の登場 ・院政と武士政権 ・鎌倉幕府の成立 ・鎌倉時代の民衆の生活	7	古代と比べて、政治や人々の生活はどのように変化したのかを考察する。
		学年末 テスト		2	
	3	ユーラ シアの 動きと 武士の 政治の 展開	・モンゴルの襲来 ・南北朝の動乱と室町幕府 ・産業の発達と民衆の政治 ・室町文化とその広がり ・応仁の乱と戦国大名	10	幕府が崩壊した後にできた政権はどのような特色を持つものか、これまで学習した政権と比較して考察する
		中世の まとめ		2	古代と比べて中世はどのような時代であるか自分の考えをまとめる。

教科名	数 学	週時間数	4	学年	1
使用教科書及び副教材等	・「中学数学Ⅰ」(啓林館)・「数問チェックノートⅠ」(新学社) ・「数学の問題ノート」(新学社)・「数学ノート」(明治図書)・「Wプリント」(新学社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」			
教科のねらい	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連について理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			
授業の進め方	授業は、基礎学力が確実に定着するように教科書の内容を中心にすすめていきます。また、機械的な計算方法を反復練習し、例題を通して問題の解決策を見い出させるようにしていきます。			
定期テスト	出題方針	教科書の内容に準じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、数学的に考える資質・能力の習熟度を計ります。		
	範囲 (予定)	1学期中間	小学校の復習、正の数・負の数	
		1学期期末	正の数・負の数、文字の式	
		2学期中間	文字の式、方程式、変化と対応	
		2学期期末	変化と対応、平面図形	
		学 年 末	平面図形、空間図形、データの活用	
学習方法 (アドバイス等)	授業に集中し、関心を持って意欲的に学習に取り組み、例題を参考にして自分の力で解いてみましょう。また、間違えた問題については、理解できるまで何度も解いてみるのが大切です。			

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・一次式の計算をすることができる。 ・一元一次方程式を解くことができる。 ・関数関係の意味を理解し、比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 ・基本的な作図の方法や移動について理解することができる。 ・空間における直線や平面の位置関係を知り、扇形の弧の長さや面積、柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。 ・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解し、データを表やグラフに整理することができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	・正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。 ・一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。 ・一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 ・比例・反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・基本的な作図の方法を考察し、表現することができる。 ・立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。 ・データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・ノートの記述内容 ・ワーク等の提出内容 ・振り返りシートの内容 ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	1. 正の数・負の数	・0より小さい数	3	・正の数、負の数、自然数の意味を理解する。
			・正の数・負の数で量を表すこと ・絶対値と数の大小	2	・数直線を用いて正の数負の数を表すことができる。 ・絶対値の意味を理解する。 ・不等号を使って数の大小関係を表すことができる
	5		・正の数・負の数の加法、減法	6	・加法、減法の計算ができる。
			・加法と減法の混じった式の計算	3	・加減の混合計算ができる。
			・正の数・負の数の乗法、除法	5	・乗法、除法の計算ができる。
			・いろいろな計算	3	・四則計算ができる。
	6	2. 文字の式	・数の世界の広がり	2	・素数の積の意味を理解することができる。
			・正の数、負の数の利用	2	・正の数、負の数を活用し、課題解決ができる。
	7		・数量を文字で表すこと	3	・文字を使った式の意味を理解し、文字を使って数量を表すことができる。
			・文字式の表し方	5	・文字のきまりを知り、それにしたがって文字式を書くことができる。
			・式の値	2	・式の値の意味を理解し、求めることができる。
			・文字式の加法、減法	4	・1次式の加法、減法の計算ができる。
2	9		・文字式と数の乗法、除法	3	・1次式と数の乗法、除法の計算ができる。
			・関係を表す式	2	・等式の意味を理解し、等式を使って2つの数量が等しいことを表すことができる。
			・方程式とその解	2	・不等式の意味を理解し、不等式を使って2つの数量の大小関係を表すことができる。
			・方程式の解き方	4	・方程式やその解、解くことの意味を理解する。
	10	4. 変化と対応	・比と比例式	2	・移項の意味を理解し、移項の考え方を使って方程式を解くことができる。
			・方程式の利用	4	・比の値、比例式の意味を理解し、簡単な比例式を解くことができる。
			・比例式の利用	2	・方程式を使って問題を解決することができる。
			・関数	1	・比例式を使って問題を解決することができる。
	11	5. 平面図形	・比例の式	4	・関数関係の意味を知る。
			・座標	4	・比例の特徴を、式の形からとらえることができる。
			・比例のグラフ	2	・座標を読み取ることができる。
			・反比例の式	3	・比例の関係をグラフに表すことができる。
3	12		・反比例のグラフ	4	・反比例の特徴を、式の形からとらえることができる。
			・比例、反比例の利用	3	・反比例の関係をグラフに表すことができる。
			・直線と図形	4	・事象から比例、反比例の関係を言い出して、問題を解決することができる。
			・図形の移動	3	・直線、線分、角の意味を理解する。
	1	7. データの活用	・基本の作図	2	・2直線の位置関係を理解する。
			・図形の移動と基本の作図の利用	2	・点と直線の距離や、平行な2直線間の距離を理解する。
			・円とおうぎ形の性質	4	・平行移動、回転移動、対称移動の意味と性質を知る。
			・円とおうぎ形の計量	5	・垂直二等分線、角の二等分線の意味を知り、作図ができる。 ・垂線の作図ができる。
	2		・いろいろな立体	2	・垂直二等分線、角の二等分線、垂線の作図の活用することができる。
			・空間内の平面と直線	4	・作図を活用して条件をみたす地点を求めることができる。
			・立体の構成	4	・円やおうぎ形、円の接線の意味を知る。
			・立体の体積	3	・円周率 π の意味を知り、円周の長さや円の面積を求めることができる。
3	3		・立体の表面積	3	・おうぎ形の中心角と弧の長さ、面積の関係を知り、周の長さや面積を求めることができる。
			・データを活用して、問題を解決しよう	3	・角錐と円錐、正多面体の意味と特徴を知る。
			・整理されたデータから読みとろう	3	・空間における2直線、直線と平面、2平面の位置関係を理解し、平面の決定条件を理解する。
			・相対度数と確率	3	・見取図、展開図、投影図を使って、立体を平面上に表すことができる。 ・体積の公式を理解し、体積を求めることができる。 ・展開図を利用して、柱体、錐体の表面積を求めることができる。
	4		・1年間の復習	15	・ヒストグラム、代表値、相対度数の必要性和意味を知る。
					・資料の傾向をとらえ、説明できる。
					・確率の意味を理解し、確率を求めることができる。
	5				

教科名	理 科	週時間数	3	学年	1
使用教科書及び副教材等	教科書「サイエンスI」1年生(啓林館) 理科の学習(浜島書店)				

指導の重点	問題解決能力、思考力		
教科のねらい	<第1分野>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 <第2分野>生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な能力を育成する。		
授業の進め方	授業は、黒板の内容をノートに書く。ICT機器で図表や実物を詳しく提示したり、プリントで問題練習等を行ったりする。実験・観察は班別で行い、プリントやクロムブックを使い、実験結果などをまとめるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に行った内容を中心に、観点別の問題を出題する。「知識・技能」に関しては、自然の事物・現象についての基本的概念や原理・法則の理解についての問題や、授業で行った実験を中心に、目的や安全に行う注意点、結果についての問題を出題する。「思考・判断・表現」に関しては、モデル図などを使って基本的概念や原理・法則を説明するような科学的な見方や考え方についての問題を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	いろいろな生物とその共通点
		1学期期末	いろいろな生物とその共通点、身のまわりの物質
		2学期中間	身のまわりの物質
		2学期期末	光・音・力による現象
		学 年 末	光・音・力による現象、活きている地球
学習方法 (アドバイス等)	授業をしっかりと聞くこと。復習は完全学習・プリントを中心に、モデル図や表、グラフ、実験の図や方法、結果、安全に関する注意点などを確認し、押さえておくこと。		

評価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている	・定期テスト ・小テスト ・プリントの内容 ・行動観察(発言・発表)
	②思考・判断・表現	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。 ・科学的な思考を問うテスト問題に答えることができる。	・定期テスト ・小テスト ・プリントの内容 ・行動観察(発言・発表)
	③主体的に学習に取り組む態度	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・プリントの内容 ・ワーク等の提出内容 ・ふりかえり用紙の内容 ・行動観察(発言・発表) ・小テスト ・調べ学習

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	いろいろな生物とその共通点	◎植物の特徴と分類	17	・ルーペ・顕微鏡の使い方 ・生物の観察のしかた、スケッチの描き方 ・「水中の小さな植物」の観察 ・身近な植物の観察 ・花のつくり・役割・種子 ・被子植物の特徴 ・裸子植物の特徴 ・シダ植物、コケ植物の特徴 ・植物のなかま分け ・動物の体の共通点と相違点 ・動物のなかま分け ・いろいろな実験器具 ・物体と物質のちがい ・ガスバーナーの使い方 ・有機物と無機物
	5		◎動物の特徴と分類	5	
	6	身のまわりの物質	◎いろいろな物質とその性質	14	
	7				

2	9	身のまわりの物質			・金属・非金属(代表的なプラスチック)の特徴 ・密度とその計算 ・上皿てんびんの使い方 ・メスシリンダーの使い方 ・状態変化と熱 ・状態変化の粒子モデル ・物質の融点と沸点、蒸留
	10		◎いろいろな気体とその性質	11	・気体の集め方 ・酸素・二酸化炭素の性質 ・水素・アンモニアの性質 ・窒素・塩素の性質 ・わからない気体を調べる
			◎水溶液の性質	8	・溶液・溶質・溶媒 ・質量パーセント濃度の計算
	11		◎物質のすがたとその変化	5	・溶解度曲線のグラフと再結晶
			◎光による現象	10	・光の進み方 ・反射・屈折 ・凸レンズ ・焦点・焦点距離
	12	光・音・力による現象	◎音による現象	4	・音の伝わり方・速さ ・音の大きさと高さ
			◎力による現象	7	・力のはたらき・いろいろな力 ・2力のつりあい ・フックの法則、重さと質量の違い
3	1	活きている地球	◎身近な大地	5	・風化、侵食、運搬、堆積 ・堆積岩の種類と特徴
			◎ゆれる大地	7	・地震のゆれの種類、速さ、伝わり方 ・震度・マグニチュード、自然の恵みと火山災害・地震災害
	2		◎火を噴く大地	7	・火山活動と火成岩のでき方 ・火成岩と鉱物の種類と特徴
	3		◎語る大地	5	・化石と地質年代 ・地層・断層・褶曲 ・柱状図 ・プレートテクトニクス

教科名	音 楽	週時間数	1.3	学年	1
使用教科書及び副教材等	教科書 中学生の音楽Ⅰ (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社) 副教材 MY SONG (教育芸術社) 音楽のハーモニー (正進社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的の学びに向かう態度」		
教科のねらい	・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。 ・多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。		
授業の進め方	・授業の始めに発声練習を行う。 ・授業は一斉授業の形で進める。 ・合唱は、必要に応じてグループやパートごとに練習する。 ・授業の終わりに自己評価プリント等で反省とまとめ、次回への課題を探す。		
定期テスト	出題方針	授業の内容を中心に出题する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	
		1学期期末	1学期のまとめ
		2学期中間	
		2学期期末	2学期のまとめ
		学 年 末	1年間のまとめ
学習方法 (アドバイス等)	・授業の約束を守る（遅刻しない・忘れ物をしない・集中して課題に取り組む） ・実技テストでは、自分の力を充分に出しましょう。 ・活動に積極的に参加し、目的意識を持って取り組むこと。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱等の音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	・定期テスト ・実技テスト
	②思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・行動観察 ・実技テスト ・鑑賞ワーク提出
	③主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・遅刻・忘れ物・提出物 ・発表 ・行動観察 ・振り返りプリント

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4		オリエンテーション	1	
		音楽のきまり	音楽記号と音名 いろいろな記号	1	・音符、休符、記号の名前をおぼえながら音楽を形づくっている要素を知覚する。
	5	歌唱・指揮	「校歌」 「楽しい発生のドリル①③」 「エーデルワイス」 「指揮法」	3 1 1	・正しい歌唱姿勢を保ち美しい響きで歌唱する。 ・音楽の要素(旋律・リズム・ハーモニー)を感じ取りながら歌う。 ・音楽の三大要素を感じ取りながら歌唱する。 ・指揮法の基本を学ぶ。
	6	鑑賞	「ジョーズのテーマ」 「弦楽器」 「春」	1 2 2	・イメージと音楽の要素を感じ取る。 ・弦楽器の特徴を感じ取る。 ・曲想の変化を感じ取って、情景を想像しながら鑑賞する。
	7	合唱	合唱コンクールにむけて	2	・自由曲・指揮者・伴奏者を決める。

2	9		各クラスの合唱曲	10	・声部の役割を意識し、全体の響きに興味を持ち表現する。 ・互いの演奏を聴き合い評価し合う中で、一つの音楽をつくることの楽しさやすばらしさを感じ取る。
	10				
	11		「浜辺の歌」	2	・日本歌曲のことはや旋律の美しさを感じ取り表現できるようにする。
			「木管楽器」	1	・木管楽器の特徴を感じ取る。
			「魔王」	2	・詩の内容を理解し、場面を想像しながら鑑賞する。
	12		拍子とリズム	2	・音符、休符、記号の名前をおぼえながら音楽を形づくっている要素を知覚する。
3	1	鑑賞	平調「越天楽」	2	・雅楽独特の楽器の音色や響きを味わい、背景となる文化や歴史と関わらせて音楽全体を聴き味わう。
		器楽表現	箏曲「六段の調」 箏「さくらさくら」	4	・和楽器の音色に親しみ、日本の伝統音楽に親しむ。
		歌唱	「朝の風に」	2	・合唱コンクールの経験を生かして、それぞれのパートの動きを意識しながら歌う。
	2	鑑賞	日本の民謡	2	・日本の民謡に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取る。
	3	鑑賞	アジアの諸民族の音楽	2	・声や楽器の音色、リズム、速度、旋律の特徴を感じ取る。

教科名	美術	週時間数	1.3	学年	1
使用教科書及び副教材等	教科書「美術1」 光村図書 レタリング字典 秀学社 美術資料 秀学社				

指導の重点	「知識技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	・楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し想像する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 ・自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。		
授業の進め方	授業は、作品の制作だけでなく、美術資料などで知識や技能を幅広く身に付けられるようにする。また、自己評価シート等を使って授業への取り組みを振り返り、次の制作に活かせるようにする。鑑賞では、教科書・美術資料・パソコン教材・生徒作品等を鑑賞し、ワークシートを使って自分の感想・意見を述べられるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	実技テスト中心。授業中に学習した内容を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	実施しない
		1学期期末	実技課題。レタリング 色彩などの基本問題
		2学期中間	実施しない
		2学期期末	実技課題。 色彩、デザイン、鑑賞などの基本問題
	学 年 末	美術的総合力に関わる知識、実技課題。	
学習方法 (アドバイス等)	・授業に意欲的、積極的に取り組む。 ・チャイム着席、作業の準備、後かたづけがしっかりできるようにする。 ・提出物は期日を守って必ず提出する。 ・私語は慎み、根気よく制作に集中する。 ・各自の制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことができるようにする。		

評価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・美術や文化についての知識、基礎的な技法について理解することができているか。 ・自然や身近なものを深く観察し、形や色彩の特徴や美しさをとらえて表現することができているか。 ・表現の基礎的な技法を理解し、制作することができているか。	・作品、ワークシート制作過程など ・行動観察 ・定期テスト
	②思考・判断・表現	・様々な角度から発想し、構想を練ることができているか。 ・制作過程において、修正、検討しながら、自分らしい表現を心がけることができているか。 ・自分の表現意図にあった材料・用具を生かして創意工夫し、制作することができているか。 ・作品の良さや美しさを感じ、味わうことができているか。 ・作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取ることができているか。 ・美術と社会や生活との関わりについて、気づくことができているか。	・作品、ワークシート、制作過程での自己表現など ・行動観察 ・定期テスト
	③主体的に学習に取り組む態度	・授業に関心を持ち、意欲的、積極的に表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができているか。 ・制作するための資料を探し用意するなど主体的に取り組めるか。 ・作品の意図を発表したり、他の生徒作品や発表に関心を持つことができているか。 ・資料や材料・用具の準備、後片付けができているか。 ・作品やワークシート等、提出期限を守って提出することができているか。	・作品の内容 ・授業中の発言 ・行動観察 ・自己評価 ・定期テスト

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	美術の学習	・授業内容、美術の教材等、留意事項のオリエンテーション	1	・美術の楽しみ、授業の形態、留意事項や 年間の授業予定を知り、意欲を持って授業に臨むことを伝える
		鑑賞	・多くの作品に触れる	1	・教科書や資料集などの作品に触れる
	5	レタリング	・明朝体、ゴシック体の練習	2	・主な書体の特徴、用途について知る ・レタリングの基礎的技法の習得
	6	デザインセットの使い方	・デザインセットの正しい使い方、技法 ・平塗りの技法、用具の使い方	2	・デザインセット、絵の具の使い方を正しく学ぶ ・着彩道具や着彩方法について理解する
		文字絵の制作	・レタリングを用いて文字絵を製作する	9	・自分が選んだ文字の意味を考えて作品に生かしていく ・ポスターカラーを学習したことを有効に使っていく
	7	ポスター	・ポスターの描き方	1	・ポスター制作の手順や基本的な技法について考える
2	9	色の学習	・色彩の基礎的知識 ・混色練習と彩色	3	・着彩道具や着彩方法について理解する ・色の名前・色の三要素・色相環 ・無彩色と有彩色・三原色・補色 ・明清色、暗清色、濁色・色立体 ・色の感情、配色の効果、色彩心理 ・混色や着彩の仕上がりなど、計画表やクロムに記入し次の作業に生かせるようにする ・画面構成の基本、美の秩序や効果について理解する ・美の秩序、構成の知識をもとに、画面を構成する ・クラスメートの作品を鑑賞し、発想のよさや構成の美しさを感じ取り、クロムを使って共有する
	10	美の構成要素	・美の秩序、構成の基本	1 2	
		平面構成	・身近なものからの発想による色彩構成		
	11	鑑賞	・生徒作品の鑑賞及び作品の良さを感じ取る	1	・完成した作品をお互いに鑑賞しあい、他の人の作品の良い所、努力が感じられる所などを共感しあい、次の作品の意欲につながるようにしていく
	12	鑑賞	・先人の作品を鑑賞する	2	・作者の心情、表現意図、表現の工夫を感じ取り、作品のよさや美しさを味わう。 ・作者の人間としての生き方や個性に関心をもち、美術の社会への影響力を理解する
		絵画	・点描で表す	1 0	・スーラやシニャックなどの描画方法を鑑賞して対象を点で表現することを学ぶ ・自分が選んだ作品を点描で表現する
3	1				
	2				
	3	鑑賞		1	・完成した点描の作品を鑑賞しあい、他の人の作品の良い所、努力が感じられる所などを共感しあい、次の作品の意欲につながるようにしていく

教科名	保健体育	週時間数	3	学年	1
使用教科書及び副教材等	教科書 「中学保健体育」学研 副教材 「中学体育実技」学研				

指導の重点	「学ぶ意欲」		
教科のねらい	保健体育科では「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」という目標を達成するために、まず、「学ぶ意欲」を高めていきます。そのことで自ら進んで活動し、個人（グループ）の課題（目標）を持って授業に取り組めるようになると考えます。そして、課題の解決を目指して考え・工夫する資質や能力、健康・体力の向上も期待できるものと考えます。		
授業の進め方	授業を進めるにあたって必要なこと(準備・片付け、初歩的なルールなど)を覚える。そして、基本的なこと(動作や技術、戦術など)を練習する。さらに、先生や友だちのアドバイスを参考にしながら、自分(たち)の課題(目標)を解決していくために、自ら進んで取り組み、考え・工夫したりしながら協力して練習や試合、記録計測をしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に説明したことや教科書、副教材から出題します。	
	範囲 (予定)	1学期中間	
		1学期期末	1学期の範囲
		2学期中間	
		2学期期末	2学期の範囲
	学 年 末	3学期の範囲を中心に全範囲	
学習方法 (アドバイス等)	○自分の能力を精一杯発揮し、最後まで粘り強く取り組む。 ○日頃から健康管理に努め、欠席・見学をしない。 ○指示をよく聞いて仲間と協力して活動（準備、片づけ、練習など）し、まわりの安全を考えて取り組む。 ○効果的で安全な活動をするため、基礎的な事柄（服装や身なりを整え、運動種目の規則を守るなど）に注意し取り組む。 ・服装:学校指定の体操服を着用する。授業内容や気温によって、ウインドブレーカーや手袋の着用も認める。※体調不良等、特別な理由がある場合は連絡する。 ・安全のため、前髪は目にかからないようにする。髪が肩まで伸びていればゴムで束ねる。靴下は、足首が隠れる長さの物を用意する。爪も短く切りそろえておく。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・運動の特性、競技やルール、審判の方法を理解している。 ・安全や健康に対する基礎的な事柄が理解できている。（服装や身なり、場の設定、事故やケガの予防法） ・自己やグループの能力に応じた、技能・体力の高め方を理解できている。（課題の選び方、練習の仕方） ・自己の技能を精一杯発揮している。 ・授業に取り組む中で運動の特性に応じた技能の向上が見られる。 ・個人的技能や集団の技能を記録会や試合などで発揮することができる。 ・ルール通りに審判や試合を行ったりすることができる。	授業観察 技能テスト 筆記テスト 学習カード など
	②思考・判断・表現	・運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した運動を考え、工夫している。 ・自己やグループの課題解決を目指し、練習方法やルール、作戦などを考え、工夫している。 ・指示をよく聞き準備・片付けを素早く正確に行い、活動場所や器具の安全を確認するなど事故やケガの予防を考え活動している。	授業観察 学習カード など
	③主体的に学習に取り組む態度	・自ら進んで運動し、仲間と協力しながら最後まで粘り強く取り組んでいる。 ・集合や整列など素早く行い、指示を集中して聞くなど、規律をもって授業に取り組んでいる。 ・日頃から健康管理に努めるなど、欠席・見学・遅刻・忘れ物をせず、授業に参加している。 ・勝敗や審判の判定、記録の結果などを公正な態度で受け入れている。 ・準備体操・整理体操など効果を意識して真面目に行っている。	授業観察 学習カード など 出欠、見学、忘れ物の回数、遅刻回数

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	体づくり運動	・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ 新体力テスト	10	・ 自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
		体育理論	・ スポーツの始まりと発展 ・ スポーツへの多様な関わり方	3	・ スポーツの特性に応じた学び方や、安全の確保の仕方を理解する。
	5	陸上競技	・ 短距離走・リレー	8	・ 自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
	6	器械運動	・ マット運動	8	・ 自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、技がより良くてできる。
	7	水泳	・ クロール	8	・ 自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。
2	9	体づくり運動	・ ラジオ体操 ・ 集団行動	4	・ 自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
		ダンス	・ 現代的なリズムのダンス	8	・ グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができる。
		心身の発達と心の健康	・ 体の発育・発達 ・ 呼吸・循環機能の発達	4	・ 心身の機能は年齢とともに発達するが、個人差もあることを理解する。
	10	陸上競技	・ 長距離走	8	・ 自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
	11	球技	・ ネット型	8	・ チームの課題や自己の能力に適した課題をもって球技を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開ができる。
		心身の発達と心の健康	・ 生殖機能の成熟 ・ 性とうどう向き合うか ・ 心の発達 ・ 自己形成 ・ 欲求やストレスへの対処	6	・ 思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることを理解する。 ・ 知的機能、情意機能、社会性は、生活経験などの影響を受けて発達することを理解する。 ・ 心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことが大切であること。また、欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的、身体的に様々な影響が生じることがあることを理解する。
	12	武道	・ 剣道	8	・ 伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配り、礼法などの考え方を理解する。
3	1	健康な生活と病気の予防	・ 健康の成り立ち ・ 運動と健康 ・ 食生活と健康 ・ 休養・睡眠と健康	6	・ 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、さらに、疾病は主体の要因と環境の要因がかかりあって発生することを理解する。 ・ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活が必要なことを理解する。
	2	陸上競技	走り幅跳び	8	・ 自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
	3	球技	ゴール型	8	・ チームの課題や自己の能力に適した課題をもって球技を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開ができる。

教科名	技 術	週時間数	1	学年	1
使用教科書及び副教材等	・ New 技術家庭 明日を創造する 技術分野（教育図書）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」		
教科のねらい	材料と加工についての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を見だし、課題の解決方法を考え、実行するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、ものづくりのよさを知り、技術と生活や社会との関連について理解を深め、技術を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、課題解決の過程を評価・改善しようとするなど、考える資質・能力を育成することを目指す。		
授業の進め方	授業は、基本的な知識・技能が実践の中で生かせるように、課題に取り組む中で活用する。また、製作品の設計・製作では課題解決のための構想をもとに計画を立て、取り組んでいく。取り組みについて評価・改善・修正をする。		
定期テスト	出題方針	授業や作業内容を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、技術的な考え方や資質・能力の習熟度を計ります。	
		範囲（予定）	
		1学期中間	
		1学期期末	ガイダンス、材料の特性、製図
		2学期中間	
		2学期期末	製図、寸法、製作品の設計・製作
	学 年 末	製作、社会の発展と材料と加工の技術、コンピュータの基本操作	
学習方法 （アドバイス等）	日常の中から課題を見だし、関心を持って意欲的に課題の解決方法を構想し、情報を共有しながら課題解決に取り組む。取り組みの中で必要があれば構想を修正し、課題解決後は評価・改善・修正してよりよい方法を考える。		

		観 点	評 価 規 準		評 価 方 法
評 価		①知識・ 技能	・ 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解できる。 ・ 製作に必要な図をかくことができる。 ・ 工具や機器を使用して、安全・適切に材料取り、部品加工、組み立て、仕上げや検査等ができる。 ・ 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、材料と加工の技術の概念を理解している。 ・ コンピュータの基本的な操作方法を理解し、使用することができる。		・ 定期テスト ・ 直前プリント ・ 行動観察
		②思考・ 判断・ 表現	・ 生活や社会の中から材料の製造や成形などに関わる問題を見いだして課題を設定することができる。 ・ 課題の解決策を、条件を踏まえて設計・製図することができる。 ・ 模型等を通じて解決策を具体化することができる。 ・ 設計に基づく合理的な解決作業について考えることができる。 ・ 課題解決の結果や過程を評価、改善、修正することができる。 ・ 材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用することができる。		・ 設計の内容 ・ 定期テスト ・ 直前プリント ・ 行動観察
		③主体的に 学習に取 り組む態 度	・ 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・ 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 ・ 自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。		・ 定期テスト ・ 直前プリント ・ 行動観察
年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
Ⅰ	4	ガイダンス	・ 評価方法 ・ 授業の流れ	Ⅰ	・ 技術を学ぶ上で気を付けることが理解できる。 ・ PDCAサイクルが理解できる。 ・ 製品の工夫や改善点を考えることができる。

	5	材料と加工の技術	社会の発展と材料と加工の技術 ・より安全な生活や社会を実現する材料と加工の技術 コンピュータの基本操作 設計・製作 ・製作品の構造や強度 ・キャビネット図 ・等角図	2	・木材や金属の材料の特徴が理解できる。 ・材料の特性にあわせた加工法が理解できる。 ・材料の特性を考えて製作品の構想を考えることができる。 ・材料の種類や構造によって、製作品の強度がどのように変化するか考えることができる。
	6			3	・製作品の条件に応じて、強度を高めるための材料や構造を考えることができる。
	7			3	・キャビネット図をかくことができる。 ・キャビネット図で構想を具体化することができる。
2	9		設計・製図 ・寸法 ・部品図 製作品の設計・製作 ・製作品の設計 ・製作品の製作	1	・寸法を正しいかき方に従ってかくことができる。
	10			2	・製作品に必要な部品をかくことができる。 ・縮尺した図をかくことができる。
	11		部品加工 組み立て・接合 仕上げ	4	・構想を図で表すことができる。 ・構想に必要な部品図をかくことができる。 ・図から模型を製作し、構想を具体化することができる。 ・模型をもとに構想を評価・改善・修正することができる。
3	12		・製作品の評価・改善	10	・設計をもとに作業計画を立てることができる。 ・寸法どおりにけがきをすることができる。 ・けがきした線に沿って切断することができる。 ・けがきした線に沿って削ることができる。 ・仮組み立てし、必要があれば修正することができる。 ・正しい箇所に組み立て・接合することができる。 ・必要に応じてみがき、塗装をすることができる。 ・正しく工具を使用・管理することができる。 ・作業実態に応じて計画を修正することができる。
	13			2	・製作品を評価し、改善点等を考えることができる。 ・作業工程全体を評価し、改善点等を考えることができる。 ・評価をコンピュータを使用してレポートにまとめることができる。
				2	コンピュータの基本操作の確認

教科名	家 庭	週時間数	1	学年	1
使用教科書及び副教材等	・技術家庭 家庭分野(教育図書) ・ハンドノート家庭分野(正進社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」		
教科のねらい	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。		
授業の進め方	基本的な知識・技能が生活の中で生かせるよう、各自生活における課題を話し合いながらまとめる。また、実習は可能な限り行い基礎的な技能の習得を図る。		
定期テスト	出題方針	授業や実習を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎的な内容を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	
		1学期期末	健康と食生活、栄養素の種類と働き
		2学期中間	
		2学期期末	調理と食文化、調理実習、被服実習、衣服
	学 年 末	食物分野、衣服分野、幼児教育	
学習方法 (アドバイス等)	それぞれの単元について授業をよく聞き、教科書、プリントを中心に基本的な知識を確認する。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	- 生活の中で食事が果たす役割について理解している。 - 健康に良い食習慣について理解している。 - 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特徴について理解している。 - 必要な栄養素を満たす1日分の献立を立てることができる。 - 食品の選択と購入ができる。 - 地域の食文化を調べることができる。 - 野菜をさまざまな切り方で正確に切ることができる。 - 基礎縫いを習得することができる。	- 定期テスト - ワークシートの内容 - 調理実習等の様子 - 被服実習作品 - 行動観察
	②思考・判断・表現	- 自分の食習慣について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実生活で実践し評価・改善などの考察を行うことができる。 - 中学生の1日分の献立について問題を見出して課題を設定し、解決策を考えまとめ表現することができる。 - 調理実習後のレポートで、計画、準備、調理、試食、後片付けを振り返ることで、評価・改善をまとめ実生活で生かせる工夫を考察し、表現することができる。	- ワークシートの内容 - 実習レポートの内容 - 定期テスト - 行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	- 自分なりの考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 - 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 - 自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。	- 授業出席 - 振り返りシートの内容 - ワークシートの内容 - 行動観察

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	ガイダンス	- 授業の進め方 - 評価方法の説明	1	- 家庭科の準備物と、授業の進め方が分かる。 - 評価の方法が分かる。
	5	健康と食生活	- 食生活の役割を考えよう - 健康に良い食習慣について考えよう	12	- 食事の役割について理解することができる - 自分の食習慣を振り返り、課題を見つけることができる。 - 健康に良い食習慣について考えることができる。 - 栄養素の種類と働きを理解する。
	6	何をどれだけ食べればよいか	栄養素の種類と働きを知ろう		- 生鮮食品と加工食品の特徴について理解することができる。 - 身近な食品の品質を見分けることができる。
	7	食べ物の保存	食べ物を正しく保存する方法を知ろう		- 食品の表示の見方がわかる。 - 食物の種類によって保存方法が違うので正しい保存方法を理解する
	7	食中毒について	どういった状況で食中毒が起こるか知ろう		食べ物から起こる食中毒を正しく理解することができる。
		添加物について	添加物がどんなものか知ろう		加工食品の中にある添加物について正しく理解することができる。

		何をどれだけ食べればよいか	・中学生に必要な栄養の特徴を知ろう		・食事摂取基準を理解し、中学生の時期に必要な栄養の特徴を考えることができる。
2	9	食育	・栄養教諭による授業	2	・身近な食品の栄養的な特徴を調べることができる。
		何をどれだけ食べればよいか	・食品に含まれる栄養素を調べよう ・1日に必要な食品の種類や概量を知ろう		・6つの食品群を理解することができる。 ・食品群別摂取量の目安と、1日に必要な食品の概量を理解することができる。
	10	調理実習	・時間内に決められた作業を班で協力して行っていこう	3	・調理計画を立てることができる。 ・調理室の使い方が分かる。 ・安全と衛生に注意し調理することができる。 ・班で相互評価することができる。 ・安全と衛生に気を付けて、調理することができる
	11	被服実習	・基礎技能 PCバックを作ろう	10	・きちんと教師の指示を聞ける。 ・玉結びや玉どめができる。 ・きちんと製図のように縫うことができる。 ・ミシンで直線縫いができる。
	12	衣服	・自分たちの着用している洋服や、TPOに合わせた着方を知ろう。 ・衣服の洗濯や汚れ落としの仕方を学ぼう。		・衣服の働きや選び方、手入れや補修などについて理解することができる。 ・リサイクルや環境に配慮した考え方や行動ができるようになる。
3	1	幼児教育	・自分の生まれた時を知ろう。 ・幼児の様子を学ぼう。	9	・自分の生まれた時のことを知り、大切に育ててもらっていることを知る。 ・幼児の生活や体の発育を知り、職場体験やおもちゃづくりに生かしていくことができる。
	2				
	3				

*学校行事等で予定が変更になることがあります。

教科名	英 語	週時間数	4	学年	1
使用教科書及び副教材等	NEW HORIZON English course1(東京書籍)、エイゴラボ①(正進社)、基礎をきずく(浜島書店)、英語ワークノート1年(新学社)				

指導の重点	「表現力」「問題解決力」「学びに向かう力」		
教科のねらい	「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5つの領域の力の定着を目指します。その基礎力を活用して、英語でコミュニケーションをする喜びを知り、「学びに向かう力」を育みます。相手を理解し、相手に自分の思いを伝えるため、場面や状況に適した英語の「表現力」を身に付けることを目指します。		
授業の進め方	・アルファベットや文を正しく書く練習、フォニックスを活用した発音練習を進めることにより、文字を見て、自分で発音出来るように練習をします。 ・新出の文法、単語を利用したコミュニケーション活動をペアやグループで行い、友だちと助け合いながら学習を進めます。 ・単語テストや単元テスト、また振り返りシートの活用を通して学習の定着を図ります。		
定期テスト	出題方針	授業で学習した内容を中心に以下の観点別に出題します。 「知識・技能の能力」…リスニング問題や授業で学習した範囲の単語・文法を用いた長文や教科書の本文に関する出題をします。 「思考・判断・表現の能力」…自分の意見や考えを書く問題を中心に出一道を出題します。	
	範囲(予定)	1学期中間	Unit0 / Unit1/ Unit2
		1学期期末	Grammar for Communication 1 / Unit 3 Grammar for Communication 2 / Unit 4
		2学期中間	Grammar for Communication 3 / Unit 5 / Unit 6 / Let' s Talk 1 Grammar for Communication 4
		2学期期末	Unit 7 / Let' s talk 2 / Let' s listen 1 Grammar for Communication 5 / Unit 8 / Let' s write 1 Grammar for Communication 6 /Unit9
		学 年 末	Let' s talk 3 / Let' s Listen 2 / Unit 10 / Let' s Write 2 Unit 11 / Let' s talk 4 / Let' s Listen 3
学習方法 (アドバイス等)	・授業に集中し、ペア／グループ活動に意欲的・積極的に間違いを恐れず、取り組もう。 ・家庭学習をしっかりと行い、予習（単語調べ、本文写し） ・復習する習慣をつけよう。 ・新出単語、本文、大切なポイントをまとめたノートを活用しよう。 ・提出物は期限を守って仕上げ、提出しよう。 ・わからないところや疑問点はそのままにせず、早めに質問して解決しておこう。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	授業で学習した単語・文型を理解し、聞いた内容・書かれた情報を適切に聞き取り、読み取ることができる。	・定期テスト、単元テスト ・振り返りシート
	②思考・判断・表現	授業で学習した単語・文型を用いて、自分の考えや気持ち等を表現することができる。	・定期テスト、単元テスト ・スモールトーク、音読 ・パフォーマンステスト
	③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、授業時の言語活動に積極的・意欲的に取り組んでいる。 相手(話し手、聞き手、読み手、書き手)に配慮し、主体的に英語を用いてやり取りができる。	・授業の様子 ・振り返りシート ・ノート、ワークの内容や提出状況

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	Unit 0	場面の表現 英語の音と文字、辞書の使い方	4	□小学校英語の復習。
	5	Unit 1	I am ... / I like ...	8	□アルファベットを正しく発音したり、書いたりする。
		Unit 2	助動詞canの用法 This(That) is .../ He(She) is ...	8	□be動詞、一般動詞を用いて自分について伝えることができる。 □助動詞canを理解し運用して、できることを伝えることができる。 □身近な人やものについての紹介やたずねたりすることができる。

	6	Grammar for Communication 1 Unit 3 Grammar for Communication 2	What ...? / Who ...? / How ...? be動詞と一般動詞 Where...?/ When...?/ How many...? I want to ~. 名詞 命令文の用法 What time ~? What + 名詞...? 疑問詞	4 8 8 2 2 4	☐ 疑問詞を用いて知らない人、ものについてたずねることができる。 ☐ be動詞と一般動詞の違いを理解し、運用することができる。 ☐ いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。 ☐ 自分自身のしたいことや夢を伝えることができる。 ☐ 名詞の用法を正しく理解し、運用することができる。 ☐ 相手に指示したり、助言することができる。 ☐ 時刻や好きなものをたずねたりすることができる。 ☐ 疑問詞の用法を正しく理解し、運用することができる。
2	9 10 11 12	Unit 5 Stage Activity 1 Unit 6 Let's Talk 1 Grammar for Communication 4 Unit 7 Let's Talk 2 Let's Listen 1 Grammar for Communication 5 Unit 8 Let's Write 1 Grammar for Communication 6 Unit 9 Let's Talk 3 Let's Listen 2 Stage Activity 2 Let's Read 1	前置詞、動名詞、過去形（規則動詞） be動詞と一般動詞（三人称単数のとき） 三人称単数現在形 Can I ...? / Can you ...? 三人称単数現在形 人称代名詞の目的格 Which ...? / Whose ...? What's wrong? — I have ~. 既習事項の復習 既習事項の復習 現在進行形 感嘆文 既習事項の復習 want(s) to ... / look + 形容詞 道案内の表現 既習事項の復習 既習事項の復習 既習事項の復習	8 2 8 2 2 8 2 2 8 1 2 2 2 8 1 2 2 2 3	☐ 行った場所やそこで楽しんだことなどについて話すことができる。 ☐ どこにあるか、どこにいるかを説明することができる。 ☐ 好きなことや楽しんでいること、得意なことを伝えることができる。 ☐ 好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。 ☐ 人やものについて、たずねたり伝えたりすることができる。 ☐ 三人称単数現在形の用法を正しく理解し、運用する。 ☐ 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。 ☐ 人称代名詞の用法を正しく理解し、運用する。 ☐ 自分と相手以外の人について話すことができる。 ☐ どちらなのか、だれのものなのかをたずねたりすることができる。 ☐ 相手の体調についてたずねたり、自分の体調を説明できる。 ☐ 人に関する紹介を聞いて、基本情報を得ることができる。 ☐ 代名詞を用いた表現について理解し、運用することができる。 ☐ 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。 ☐ How — ! / What — !を用いて、感動を表現することができる。 ☐ 目的に合わせたカードを書くことができる。 ☐ 現在進行形の用法を正しく理解し、運用することができる。 ☐ したいこと、必要のあることについて説明やたずねることができる。 ☐ 道順をたずねたり、教えたりすることができる。 ☐ 友達にあとで伝えるべき情報を聞き取ることができる。 ☐ 好きな有名人や憧れの人についてたずねたり、説明できる。 ☐ 図や表の情報を参考に書き手の考えを読み取ることができる。
3	1 2 3	Unit 10 Let's Write 2 Unit 11 Let's Talk 4 Let's Listen 3 Grammar for Communication 7 Stage Activity 3 Let's Read 2	一般動詞の過去形 過去形と過去進行形 There is (are) ... 注文の仕方 既習事項の復習 過去形と過去進行形（復習） 既習事項の復習	8 1 8 1 2 2 2 3	☐ 過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。 ☐ 一般動詞（規則/不規則動詞）の用法を理解し正しく運用する。 ☐ 旅先からの絵はがきを書くことができる。 ☐ 過去の状態やしていたことについて説明することができる。 ☐ ～が…にある（いる）を表現すること ☐ 注文の仕方、やりとりを理解する。 ☐ 日常的な話を聞いて主な内容を聞き取ることができる。 ☐ 過去形と過去進行形を用いた文法を復習し、理解を確かめる。 ☐ 思い出に残った学校行事について発表することができる。 ☐ 物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを理解できる

教科名	道 徳	週時間数	Ⅰ	学 年	Ⅰ
使用教科書及び副教材等	・教科書 あすを生きる(日本文教出版) ・副教材 ポートフォリオ				

指導の重点	「自己肯定感を持つ生徒」の育成
教科のねらい	・基本的な生活習慣を身につけるとともに、心身の健康の増進を図る。 ・自己肯定感が持てるようになる。 ・他の人に対する思いをもち、自分の思いを素直に言える優しい雰囲気を作る。 ・自分の役割に責任をもち、自ら行動できるようになる。
授業の進め方	・授業では、教科書「あすを生きる」を活用する。教科書付属のノートも活用し、自分の思いや考えを表現するとともに、班やクラスで意見を交流し、考え方の視野を広げていく。また副教材ポートフォリオ、必要に応じてプリントなど教科書以外の教材も活用していく。
定期テスト	
学習方法 (アドバイス等)	・教科書やワークシート、教科書付属ノート、ポートフォリオを活用していく。 ・人の発表や発言をしっかりと聞いたりできるような、話し合いの場を作る。その上で自分と他の人の考えの違いを認め、自分の意見をはっきりと言えるような話し合いを行う。 ・学習の中で出てくる問いかけや疑問に対して、自分自身の考えや思いを表記していく。
評価	学習した項目を通して、学んだことや、感じ取ったこと、受け取り方や考え方など変化の様子を文章によって評価する。

年 間 授 業 計 画					
学期	月	内 容 項 目	時数	学 習 内 容	
Ⅰ	4	・希望と勇気、克己と強い意志	Ⅰ	・サッカーの漫画を描きたい	
		・よりよく生きる喜び	Ⅰ	・挫折から希望へ	
		・思いやり、感謝	Ⅰ	・人のフリみて	
	5	・礼儀	Ⅰ	・「愛情貯金」を始めませんか	
		・公正、公平、社会正義	Ⅰ	・さかなのなみだ	
		・友情、信頼	Ⅰ	・近くにいた友	
	6	・向上心、個性の伸長	Ⅰ	・トマトとメロン	
		・生命の尊さ	Ⅰ	・ばあば	
		・遵法精神、公徳心	Ⅰ	・ふれあい直売所	
	7	・社会参画、公共の精神	Ⅰ	・あったほうがいい?	
		・節度、制約	Ⅰ	・疾走、自転車ライダー	
		・国際理解、国際貢献	Ⅰ	・花火に込めた平和への願い	
2	9	・友情、信頼	Ⅰ	・部活の帰り	
		・自主、自律、自由と責任	Ⅰ	・私らしさって?	
		・よりよい学校生活、集団生活の充実	Ⅰ	・むかで競争	
	10	・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	Ⅰ	・震災を乗り越えて－復活した郷土芸能－	
		・遵法精神、公徳心	Ⅰ	・使っても大丈夫?	
		・公正、公平、社会正義	Ⅰ	・公平と不公平	
	11	・国際理解、国際貢献	Ⅰ	・違いを乗り越えて	
		・生命の尊さ	Ⅰ	・あふれる愛	
		・社会参画、公共の精神	Ⅰ	・富士山から変えていく	
	12	・自然愛護	Ⅰ	・木の声を聞く	
		・思いやり、感謝	Ⅰ	・バスと赤ちゃん	
		・家族愛、家庭生活の充実	Ⅰ	・家族と支え合うなかで	
		・勤労	Ⅰ	・私は清掃のプロになる	
		・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	Ⅰ	・奈良筆に生きる	

3	1	・ 生命の尊さ		・ ゆうへ-生きていてくれてありがとう-
		・ 友情、信頼		・ 旗
	2	・ 相互理解、寛容		・ 自分だけ「余り」になってしまう……
		・ 感動、畏敬の念		・ オーロラ-光のカーテン-
		・ 自主、自律、自由と責任		・ 裏庭でのできごと
		・ 勤労		・ 役に立つことができるかな
	3	・ 真理の探究、創造		・ 緑のじゅうたん
		・ 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度		・ 「肝心」のバスガイド
		・ よりよく生きる喜び		・ いつわりのバイオリン